

豊中市立図書館における読書バリアフリーの取り組みのあり方について（報告）

はじめに

豊中市では令和3年（2021年）2月「豊中市（仮称）中央図書館基本構想」（以下、「基本構想」という）を策定し、社会状況や図書館を取り巻く環境が変化する中、将来にわたり安定的に図書館サービスを提供し、豊中市立図書館が地域において求められる役割を果たすための指針を示しました。基本構想に基づき、市民の知る権利や学習権を保障する機関の1つとして、読書バリアフリーの取り組みを含めた図書館サービスの提供に取り組まれています。

基本構想では、多様化する図書館ニーズやデジタル化への対応と、平成29年（2017年）3月に策定された「豊中市公共施設等総合管理計画」（令和4年3月改訂）に基づく公共施設マネジメントを推進する観点から、今後の豊中市立図書館のめざす姿として、基本コンセプト「つながる。わたしの図書館で。」が提起されています。このコンセプトには、市民が障害の有無に関わらず等しく自分なりに図書館を使うとともに、図書館が楽しみ、つながることのできる場や機会となるよう、その責任・役割を果たしていくという想いが込められています。すべての人の「わたしの図書館」をめざす時、図書館利用に障害のある人*を対象とした、読書バリアフリーの取り組みが重要かつ不可欠となるのは、改めて言うまでもありません。

今後は市立図書館の読書バリアフリーの取り組みについても、多様化する図書館ニーズやデジタル化に合わせて変化し、これまでの成果を継承しながら、発展していく必要があると考えます。2年間の検討内容を整理し、ここに報告します。

*豊中市立図書館では、障害者サービス規程に基づき、読書バリアフリーの取り組みを行っています。規程に「図書館利用に障害がある人々が図書館すべての資料を利用できるように、物理的・心理的な配慮をし、次のようなサービスを行う」とあるように、読書環境の整備にあたっては、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、施設入所者、入院患者、高齢者、外国人等、さまざまな状況により読書や図書館の利用に困難を伴う人へ配慮します。

I 今後のあり方について

令和4年(2022年)7月から2年間、豊中市立図書館の読書バリアフリーの取り組みについて審議してきました。その過程で障害福祉担当課職員から市の施策に関して説明を受けたり、障害当事者へのヒアリング結果に触れたりする機会を持ちました。そうした実情に加え、市民に情報アクセスを保障する図書館の機能や学習権を保障する目的を改めて確認しました。また、図書館の取り組みを通して社会のバリアの所在やその解消の必要性を共有し、社会の相互理解につながるのではないかと考えました。

そこで次の6つの項目を今後のあり方を考えるための主要なポイントとして位置付けることを本協議会から提起します。これらを踏まえることで知る権利や学習する権利の保障に積極的な役割を果たすよう期待します。

- (1) 図書館の取り組みは、図書館利用に際してのバリアを取り除くこと
- (2) 市民(当事者含む)の意見を取り入れて、バリアを取り除いていくこと
- (3) 図書館の取り組みを通して、社会の相互理解につながること
- (4) ニーズの変化や新しい動きに柔軟に対応できるようにすること
- (5) 人材を育成し、サービスの継続性を保つこと
- (6) 市民(ボランティア含む)や関係機関との連携により効果を高めること

(1) 図書館の取り組みは、図書館利用に際してのバリアを取り除くこと

図書館では点字図書や音声デジター図書、マルチメディアデジター図書、大活字本、さわる絵本、やさしく読みやすいLLブック、読み上げ機能に対応した電子書籍(豊中デジタル図書館)、音声解説付き映像資料など、印刷された文字資料を利用しにくい人のための資料を所蔵しています。また拡大鏡や拡大読書器、リーディングトラッカーなどの読書支援機器を提供したり、コミュニケーションボードやヒアリングループなどの意思疎通を円滑にする機器を備えています。障害者用駐車スペース、誘導チャイム、多目的トイレなどの設備が整備されています。また、サービス面でもリモートでの実施も可能な対面朗読サービスや宅配貸出・郵送貸出の実施、支援学校等への動く図書館の巡回など、図書館に行くことが困難な人に配慮した取り組みもあります。

こうした取り組みに対し実際にサービスを利用する立場にある人から聞き取りを行い、次のような意見や要望をいただきました。読書方法や情報アクセス手段に関しては、どのような資料があるのかを知るための資料目録の必要性や、音声操作支援機能の付いた蔵書検索機の設置、多機能型の拡大読書器への更新について要望があるとともに、中には周囲の人の協力を得て情報にアクセスしている様子を知ることができました。対面朗読については対面朗読室の複数の確保や配置場所に関してのご要望、リモート対面朗読を利用するうえでの感覚に個人差が大きいこともわかりました。音声デジター図書を読むための機器(プレ

クストークなど)の設置や、スマートフォンなどの読書機器を習得するための機会を必要としている意見もありました。

その他、主なご意見・ご要望を表に整理します。

テーマ	主な聞き取り内容
読書方法 情報アクセス手段	<ul style="list-style-type: none"> ・週刊誌や月刊誌の記事について問い合わせても見つからないという返答で落胆することが多い。 ・岡町図書館の4階の点字図書室は資料を探しようがない。サピエに加入していない人も、図書館だけを窓口にしている利用者も多い。目録の整備が必要だと思う。 ・図書館に行くメリットは、検索でなく自由に本が選べること。でも本がいっぱいあるので逆に選ぶのが難しい。新刊だけでも目録があれば便利。 ・館内に滞在して読書するためには入力した内容を音で知らせるパソコン(館内蔵書検索機)があるとよい。新しい拡大読書器(拡大、音声化、印刷できる機器)が図書館に置いてあっていつでも使えると助かる。 ・市の広報も墨字版を家族が読んでくれる。学校司書がそれ(点訳図書の新着情報のことか)を見て紹介してくれる。 ・サピエ図書館を利用することで、視力を失う前よりたくさん読書するようになった。就寝前や移動中に聞くこともできて便利。 ・定期的に家族が借りてきてくれるものの中から読書している。気に入ったものを借りてきてくれるとは限らない。絵手紙、相田みつを、料理の本というように自分の関心のあるテーマを伝えておくこともある。 ・スマホが使えなくても、サピエ利用に適したリンクポケットで図書を読むことはできるが、これも通信環境に影響される。
対面朗読 リモート対面朗読	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が来館しやすい場所にリーディング室(対面朗読室)は設けるべき。出張所などの市の関連施設や、利用者自宅で実施してもよいのではないかと。 ・やりたいときに出来るように対面朗読室は複数あるといい。視覚障害者一人でも行けるように入り口近くや障害物のない場所に作ってほしい。 ・図書館では、持ち込みの資料を読んでもらえるので助かっている。 ・点字図書になっていない時、早く読みたいときに利用。主に小説等で利用している。 ・リモートでの対面朗読は機器の操作を教えてくれる人がいないとできない。多くの人を使用しているOSも古いので、対応が無理だと思う。スマホなども生活用具に含まれるよう要望している。支援してくれる人がいると頼れるが、そうでないと誰が面倒を見るのか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・リモート会議システムを用いた対面朗読は、利用してみたが違和感が強かった。声だけでは、相手を認識できないため、今後利用しようとは思わない。 ・移動にかかる時間が不要なため在宅利用できる点でかなり便利。継続してリモートでの対面朗読を利用したい。
読書機器の多様化	<ul style="list-style-type: none"> ・音声デジタイズ図書は置いてあるのに再生するための機械が無い。利用者が機器を持って来ないと聞けないのはおかしい。一緒に置いておくべき。 ・スマホでデジタイズ図書が読めるよう使い方を教えて欲しい。対面朗読で使い方について取扱説明書を読んでもらいながら使えるよう支援してほしい。
豊中デジタル図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍目録がなく、どんな本を所蔵しているかわからないので利用できない。 ・電子書籍が利用できるのは知らなかったが、テキスト版サイトもあり非来館型のサービスで便利だと思う。
図書館内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・岡町の点字図書室について、ジャンル名を本棚に掲示してはどうか。棚の厚みがあれば、点字テープで貼ることができると思う。「日本の小説」といった点字表記があれば良い。 ・出入口に受付・案内のスタッフがいるのが望ましい。 ・聴覚が働かないことで、視覚にはより負担がかかる。掲示の文字も一定以上の大きさが確保されていると良い。
読書案内 情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・日本点字図書館の「セレクトパック」のようなサービスを豊中もやれば良い。 ・図書館からの新刊案内は、図書の新刊情報という面と、流行りを知るという面と両方で役立っている。 ・(宅配利用) 年齢別の推薦図書など、HPも活用して知らせてもらえると活用したい。 ・新刊や難しい(専門的な)本を見つけるのは難しいと感じる。 ・何の手がかりもなく自分で面白い本を調べるのは難しい。 ・見える人は斜め読みじゃないけど、ちらっと面白い本か判断できる部分があると思うが、見えないと同じようにできないため難しい。 ・新刊情報は、サピエ、日本ライトハウス、点字毎日、大阪府立中央図書館で見ている。市立図書館からも情報が届く。日本ライトハウスや大阪府立中央図書館は登録をしてメールでの配信になるので、PCやスマホを使えない人は利用できない。
筆談・手話	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの絵本や動画に、手話の字幕を付けて、提供してはどうか。 ・手話をテーマにした絵本も出版されている。「手話ではなそう」シリーズ) 探し絵を楽しむように、手話に触れ、学ぶことができる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・中途失聴者が手話を身につけるのは簡単ではない。筆談や文書による伝達は正確性の点からも求められている。 ・映画会や落語会に手話通訳を付ける場合は、台本をあらかじめ通訳者に提供しておくほうがよい。
--	--

(2) 市民(当事者)の意見を取り入れて、バリアを取り除いていくこと

豊中市立図書館の読書バリアフリーの取り組みの中で、最も早いものは昭和48年(1973年)に開始された対面朗読サービスです。それから数えても50年になろうとしています。近年、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律(読書バリアフリー法)」(令和元年)の成立や、ICTなどの飛躍的な技術進歩と実用化が進み、図書館も多様な読書を支えるためのサービスを一層拡充していくことが求められています。それはこれまでの図書館の取り組みを充実させることに止まりません。図書館を利用する人や利用しようとする人がどのような障害を感じているのかを知り、そこから明らかになるバリアを取り除くための取り組みを図書館サービスとして具体化することも必要になります。

今回行なった聞き取りに際し、(1)で取り上げた内容以外にも、当事者同士による情報交換の機会や周囲からの適切な情報提供により乗り越えられるバリアのあることが確認されました。

その他、関連する主なご意見・ご要望を表に整理します。

テーマ	主な聞き取り内容
読書方法 情報アクセス手段	<ul style="list-style-type: none"> ・普通に生活していると教えてもらわないと情報が得にくい。 ・豊中市でもスマホやPCを使う人、使えない人の差が大きくなっている。何かかしないといけないと思っている。講習会に参加したくらいでは、使おうというところまで進まない。
点字図書	<ul style="list-style-type: none"> ・読むものが残っている間に次を用意している。返却について、郵便局以外にコンビニなど対応可能な窓口が広がった。返却時の集荷などのサービスがあれば今後自立した時に助かる。無料なのはとても有り難い。 ・読めるタイトルが少ない。完璧じゃなくてもいいので、完成スピードが早い方がいい。周囲の話題について行けるなど、今読みたいものをすぐに入手できるようになればと思う。視覚障害者自体少ないので需要と供給が伴わないのかもしれないが。 ・点字は視覚障害者の文字という意識があり、もっと利用のすそ野を広げたい。
読書機器の多様化	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の講習会を最寄りの図書館でして欲しいというニーズはあると思う。

	<p>当事者が教えてくれるような場になるとなお良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホもパソコンも使い始めの頃、日本ライトハウスへ講習を受けに行った。講習を受けないと使用方法が特殊なので、他の人に聞けない。 ・機器の使用感など交流しながら、情報交換できる機会があれば参加してもよい。
障害者用資料の製作	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館で製作する点訳図書・音訳図書の選定会議に出席している。 ・Youtube で自動車に関する情報を得ているが、目でしか分からない情報が多い。外観や内装、ボタン装置の解説など細かい情報が掲載されている本や雑誌をリクエストで音訳図書にしてもらえると嬉しい。 ・子ども向けの日本の歴史漫画などを点訳漫画で読めたら取り組みやすい。 ・プライベート音訳サービスはかなり時間がかかります。それよりもテキスト化サービスを導入したらどうでしょう。図書をスキャンしてテキストデータにするサービスです。

(3) 図書館の取り組みを通して、社会の相互理解を深めること

図書館での読書バリアフリーの取り組みが利用に障害のある人のみを対象と考える必要はありません。本協議会では、図書館サービスや障害者用資料に接することを通して、利用に障害のない人にもバリアを知るきっかけになり、バリアについて考え、理解してもらう体験を提供できる一面に着目しました。例えば図書館資料の多様性に触れて、住民の多様性への気づきにつながるようなこともあります。

また、サービスを必要とする人に図書館の取り組みの存在や利用方法など適切な情報が伝わっていないことを指摘する声もありました。いろいろな機会を活用し、丁寧に情報提供することも併せて取り組むことが必要です。

図書館ではそれを受けて、点字図書やマルチメディアデージー図書、大活字本、さわる絵本といった障害者用資料の展示や、サピエ図書館などの紹介を一般フロアの展示ケースを利用して定期的に取り組むことになりました。引き続き相互理解を浸透させる取り組みを進めることが望ましいと考えます。

関連する主な聞き取り内容を表に整理します。

テーマ	主な聞き取り内容
対面朗読	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回利用していて、ボランティアとの合間の休憩の雑談や、行き帰りの送迎時にする職員との会話も含めての対面朗読という認識で、楽しみにしている。対面朗読はそういう時間も大事なので、人と人とのふれあい、茶飲み話込みで考えている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読者が下読みをしているのは有難い。知らないことの下調べや、図表の読み方などあらかじめ工夫してくれている。対面朗読は同じ図書を一緒に読みといていく感覚が、サピエなど音訳図書を読む場合とは異なっている。
シネマデイジー	<ul style="list-style-type: none"> ・シネマデイジーなど、防音で良い音で聞ける部屋が利用したい人が複数いても同時に使えるようにいくつかあるといい。晴眼者と障害者分けずにどちらも使えるようにしたらいい。
図書館内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・府立中央図書館のイベントスペースを利用することもあったが、気軽に使えて一般の人にも知ってもらえる空間なのが良く、高知声と点字の図書館も、1階に視覚障害者用の閲覧スペースがあり、来館者の目につくロケーションになっていて良かった。
市民、職員との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の集会室で集まって、いろいろな絵本やストーリーテリング（語り）を楽しんでいる。点字で覚えたお話しを語ることもある。 ・障害福祉センターひまわりでの点字講習会はじめ、視覚部会の活動により社会と関わり、充実感を得ている。 ・対面朗読の来館時に朗読ボランティアや図書館職員との交流も貴重な体験だった。図書館サービスの発展につながるようなことには協力したい。 ・（対面朗読）ボランティアが長く固定している良さは、細かいところの確認はしなくても意思疎通ができること。
読書案内 情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・（対面朗読の実施について）当事者には意外と知られていないのではないか。図書館サービスを紹介するためのイベントと当事者が企画するようなイベントを啓発的に行ってはどうか。以前に岡町図書館でも実施したようなイベントが定期的で開催できれば来館も増え、最寄りの図書館で対面朗読が受けられると知れば、次からは利用してみようという人もいると思う。 ・宅配貸出や郵送貸出の利用に必要なものはあるか。冊数なども知りたい。

（４）ニーズの変化や新しい動きに柔軟に対応できるようにすること

読書環境のデジタル化が進み、著作権法や読書バリアフリー法など関係法令等の整備が進められる中、図書館が新しく提供できる取り組みもますます多様化していくことが見込まれます。それらに適宜対応し、細かな要望に応えられる柔軟性も必要になります。

関連する主な聞き取り内容を表に整理します。

テーマ	主な聞き取り内容
リモート対面朗読	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事でリモート会議システムも使っているが、リモートでの対面朗読は、プライベート録音で音訳データを渡してもらうのと大差ないと感じるので、あま

	り利用しようとは思わない。メニューとして選択できるようにしてあることは望ましい。
点字図書	・読むものが残っている間に次を用意している。返却について、郵便局以外にコンビニなど対応可能な窓口が広がった。返却時の集荷などのサービスがあれば今後自立した時に助かる。無料なのはとても有り難い。
録音図書	・録音図書がカセットテープの時は速読できるのでカセットテープを選ぶこともあった。 ・現在の読書は主に点字図書。音訳は速度についていくことが必要だし、聞き始めると音訳のほうに偏りかねないため、読める間は点訳での読書続けさせたい。
読書機器の多様化	・視覚障害者でも Youtube など上手に使いこなしている人もいて、感心している。利用できる人、できない人の格差は広がっていると思う。図書館のサービスとして機器を利用できる環境を提供するというのも意味があると思う。 ・ICTの利用は個人差があるが、パソコンも使っていたのであまり問題なかった。スマホは使えていないので、技術の進歩に取り残されつつあるとは感じている。機器の利用については視覚障害に関係なく課題だと思う。
障害者用資料の製作	・読めるタイトルが少ない。完璧じゃなくてもいいので、完成スピードが早い方がいい。周囲の話題について行けるなど、今読みたいものをすぐに入手できるようになればと思う。視覚障害者自体少ないので需要と供給が伴わないのかもしれないが。
図書館内環境	・アップルウォッチを使いこなして行動している人もいる。将来的に信号と連動した機能が備わるという話も聞くが、バグのない安全な状態で使えるのかどうか気になるところ。
市民、職員との関わり	・電話により希望図書を依頼している。電話により図書館職員と会話できるのも良さと感じている。 ・手話によるコミュニケーションが可能な人は聴覚障害者の中でも多数派ではない。中途失聴者が手話を身に付けるのは簡単ではない。補聴器の性能にも限界があり、筆談によるやり取り、文書による伝達は正確性の点からも求められている。(手話による対応が不要という訳ではない)

(5) 人材を育成し、サービスの継続性を保つこと

協議会では職員を育成する必要性を指摘する意見もありました。変化する社会の動向に適切に対応できる図書館職員を育てる体制が望まれます。聞き取りの中では、当事者同士の

サポート体制を求める意見もありました。また、対面朗読や障害者用資料の製作などにボランティアと協力して取り組んでいますが、引き続き他部局とも連携して、研修の機会や情報・意見交換する場を確保する必要があります。

関連する主な聞き取り内容を表に整理します。

テーマ	主な聞き取り内容
対面朗読	・利用するのは専門書が多いため読める方が限定され、以前のボランティアは10年以上、現在も5年近く読んでもらっている。
人材育成	・専門書も読める人材が、安定的に確保してもらえるよう期待している。 ・調べること、知りたいことができたときにコミュニケーションできることが大事。声をかけやすい雰囲気や、適切なスタッフ配置、それがわかる掲示など、そういうことが必要である。図書館員から紹介されて、適した資料の提供を受けたことがあり、そういう体験が誰でも受けられるようにしてほしい。 ・要約筆記など聴覚障害者とのコミュニケーションについて職員研修してはどうか。ボランティアの観点からになるが、協力できる。 ・録音図書製作のための自主研修に図書館の集会室を使えるのはありがたい。

(6) 市民（ボランティア含む）や関係機関との連携により効果を高めること

将来にわたり持続的に図書館サービスを提供するうえで、市民や関係機関との連携は不可避であり、それによって図書館の取り組みの効果も一層高まることが期待できます。協議会での関係部局からの報告では、印刷された文字認識に障害のある人が自分に適した読書方法を試すことのできる場所として図書館の資料や機器を活用できる可能性や、車いす利用者などの目線での什器の選択や配置の重要性などの指摘が、実際に利用している人の声として届けられました。意見や情報交換をはじめとした、このようなサービス効果を高める連携には今後も積極的に取り組むべきです。

関連する主な聞き取り内容を表に整理します。

テーマ	主な聞き取り内容
点字図書	・点字データが間違っているとそのデータを基に印字するとすべてで間違ってしまう。間違いを指摘してもデータの所蔵先に伝わりにくいため、そのようなことが起こるのではないかと。作っている人と、使っている人の接点がないための問題。
障害者用資料の製作	・製作者と利用者をつなぐ役割を図書館には果たして欲しい。利用統計など伝えてもらえると本選びの参考になる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・製作物がどのように利用される人に受け止められているのか、その反応を知りたい。今後の製作タイトルを選ぶ参考にもできると思う。
図書館内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・高知のオーテピア（オーテピア高知図書館・高知声と点字の図書館・高知みらい科学館の複合施設）の良さは機能複合的などところ。障害福祉の窓口も併設されており、同時に複数の目的を果たせる。 ・防音設備の整った録音室や機材置き場を設けて欲しい。自宅録音では周囲の雑音などへの配慮にも限界がある。
市民、職員との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館協議会に介護職員や福祉部局の職員が参加しても良いのでは。 ・保育所、幼稚園、小学校～高校との連携を深めていくと、よりサービスが広がると思う。
学校図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習で学校図書館を利用する。基本は本を借りる場所。ビブリオバトルでも利用。

Ⅱ（仮称）中央図書館基本構想について

豊中市は（仮称）中央図書館基本構想を進めるうえで、（仮称）中央図書館の立地、施設・設備、図書館機能、複合機能など多岐にわたり市民との対話を通して計画を進めていくこととしています。今回の聞き取りの機会を利用して、図書館利用に障害のある人から（仮称）中央図書館や施設再編についてご意見をいただきましたので、それらを表に整理し報告します。

テーマ	主な聞き取り内容
（仮称）中央図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・駅の近くがいいが曽根・岡町・豊中駅のどこも駅周辺が複雑になっていて行けない。 ・対応・案内をしてくれるスタッフ（何をしに来たか聞いてくれる存在）が必要。 ・中央図書館では利用者が集まって話したりできる場所があるといい。自販機も置いてほしい。静まりかえった環境ではなく、普通に音があるほうがいい。カフェのような空間がいい。 ・対面朗読室は順番待ちしなくても利用できるよう複数あってほしい。手引きが無くてたどり着けるよう、出入り口に近く、障害物のない場所に配置してほしい。 ・障害者は同じフロアで用事が片付くようにしてあるだけでも良い。 ・対面朗読室のようなスペースがあればヘッドホンなしでも読める。映画も音だけで楽しめるが、観たいものは有料のことが多い。観た記憶が残っているものは声だけでも楽しめる。新しいものはガイドがないと難しい。 ・公共施設は最近、駅から近い場所にあるが、道幅が狭い、歩道がない、車の交通量が多いなど危険を感じることが多い。また、点字ブロックの設置が適切でなかったり、メンテナンスが不十分だったり、ひとりで通うには困難を感じることもある。館内で移動する動線についてもしかり。図書館の再編を検討するのであれば、動線の安全について議会や行政できちんと検討して欲しいと思っている。 ・中央図書館では車いすの回転ができたり、通り抜けができたりするエレベーターにしてはどうか。 ・駅から図書館の距離は少々離れていても大丈夫。歩行の援助もいただけるので。駅からバスに乗り換えるのは困る。どこから乗るのか探すのにも苦労するから、利用のハードルがあがると思う。 ・誘導チャイムは便利。公共施設ではエレベーターにもよく付いている。地下鉄の地下出入口にある。信号だけでなく、駅名まで含めて案内してくれるもの

もある。人感センサーで対応するものもあって助かる。そこに何があるのか知らせてくれるほうが嬉しい。性別で分かれる場所などでは信号音だけでは足りない。

- ・図書館の中でトイレの誘導などはトイレ内まで案内、説明しているか。ヘルパーさんに手洗い場所や、便器の位置、リモコン操作についてまで説明してもらうこともある。身体介助がある場合はどうか。トイレの介助は、まわりの声かけも必要。事故が起きないように十分な配慮を。

- ・映画を観るスペースが欲しい。もしくは、音声ガイド付きの映画上映。また、デイジー図書の試聴機器があれば、図書館で試聴して気に入ったものを貸出し、自宅で聴くということもできる。

- ・シネマデイジーは映画の本編に解説を付けてあると思うが、中央図書館でそうしたものを上映する機会があるなら参加してみたい。

- ・アクセスは駅から近いと嬉しい。自分で企画したイベントでも会場を駅近であることは絶対条件。駅から離れると、ヘルパーの手配など手間がかかり、それだけで行く気持ちが削がれる。

- ・アクセスの面では、千里図書館と蛭池図書館は駅から直結のため行きやすい。岡町図書館は視覚障害者の立場からは遠い。自転車や自動車と同じ道を歩くのは緊張度合が違ってくる。

- ・駅からの歩道が確保されて点字ブロックがあったとしても、今のように図書館と最寄りの駅間の送迎があるのは大事にして欲しい。立地条件も大事だが、ソフト面での支援も残して欲しい。

- ・点字図書や録音図書がそこで読める環境を整えてほしい。

- ・駅近であれば時間の無駄もないし、待ち時間も有効に活用しやすい。

- ・名古屋市鶴舞中央図書館は公園にあるが、点字ブロックが公園内も敷いてあり、図書館に行くついでに公園を散歩することもできる。点字ブロックを有効に活用している例だと思う。

- ・ワークショップなど、視覚障害者の意見を計画に取り入れる工夫が必要。

- ・急行電車が停車することから豊中駅前が便利ではないか。

- ・1人で電車に乗れないので、最寄りの豊中駅前にあると助かる。

- ・図書館へ行くとしたら、誰かに付き添ってもらおう。見える人より障害が大きい、行きにくい面がある。練習すれば1人で行けなくはない。場所は駅から近い方が良い。

- ・館内はカウンターなり職員さんがいるところまで点字ブロックがあるほうが便利。

	<ul style="list-style-type: none"> ・館内の棚の配置とか覚えるまでは、職員に案内してもらえると助かる。 ・自宅の近くにできると嬉しい。岡町や曾根は駅から点字ブロックが続いているので便利だが、車や自転車がも多く歩きにくさは感じる。歩道があって点字ブロックがある道だと、1人で行動するようになっても安心できるが、中学校までの通学路など点字ブロックのあるエリアとないエリアがあり悩ましい。 ・岡町駅から図書館まで点字ブロックがつながっていません。リブ式区画線（でこぼこ白線）が途中まで敷設されていますが、図書館の入り口までは、それもつながっていません。 ・対面朗読室がすくなく、予約がとれないことがあります。 ・岡町図書館の対面朗読室は隣が警備員休憩室になっており、休憩の雑談声がきこえて、対面朗読に集中できません。 ・杖や車イスを使っていると、20～30分かかる距離では日常的に利用するのは難しい。
図書館の再編	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄りの図書館が引っ越したらもう来館できない。私が図書館に来館できているのも近くに住んでいるから。見えていたところと場所が変わってしまうとわからなくなってしまう。岡町図書館や千里図書館は入口がわからない。 ・対面朗読を最寄りの図書館で利用できなくなる点については気にならない。サービス自体がなくなると困るが。 ・中央図書館にすべてを集約すると、いろいろ弊害は予想される。中央図書館への集約を考えるなら、安全、安心してアクセスできる道や内装環境を十分考えてもらいたい。 ・読書の方法としてデータをダウンロードして聞くのと分けて考えているから、歩いて行ける生活圏内に公共図書館があって、対面朗読を利用できるのは自分にとっては大きなこと。そこでボランティアの方が読んでくれるサービスは残して欲しい。千里図書館も行けないことはないが、阪急沿線の中央図書館は遠く、最寄りの図書館での対面朗読は残って欲しい。 ・身近なところ、公民館等でも図書に触れることができれば、自分たち以外にも、例えば子どもなどの利用にも適しているのではないかと。

さいごに

図書館はすべての市民にとって開かれた施設であるべきです。そのため障害者サービスを提供することが大切です。このサービスは図書館を利用するうえでの物理的、心理的、社会的なバリアを取り除くことが目的です。どのようなバリアがあるのかを認識するために、図書館利用に障害のある皆さんと対話する機会を持ち、その意見を取り入れることも必要です。さらに図書館の取り組みを通して、市民社会の中での相互理解を深めることもめざしています。

このためには市民ニーズの変化や新しい動きに柔軟に対応することが求められます。そうした柔軟性と専門性とを具えた人材の育成も欠かせません。さらに障害福祉に関する部局や視覚障害者等情報提供施設、当事者団体等とのつながりを深め、協力関係をつくることも重要です。これらの取り組みを通じて、図書館がすべての人の「わたしの図書館」になることを切に希望します。